

宣 言

日本労働組合会議が我が国に於ける労働組合戦線を統一してその中心的勢力を確立し、健全なる労働組合主義の大旗をかざして健斗する。七二年、茲に第三回大会を迎ふるに当り、我等は我等の責務の益々重大を加へつゝ、あるを痛感するものである。世界は今や挙げて産業不況に苦悶してあるの秋、我が国資本主義は、安定の傾向を示すもの、如くである。然しながら今日の安定は全く單に軍需インフレと輸出インフレに立脚したる跛行的(一時的)インフレ景気であつて、断じて健全なる全般的好況に非ざるは明自である。而も農村の窮迫と一般産業の破綻(益々加重)しつゝあるを見る。

此の非常時局に際し、我々組合会議は昨冬、産業及労働の統制に關する重大なる建議を政府に要請し、我が國の産業及労働の帰趨を明示すると共に従來の主張たる産業協力の實を擧ぐるための努力し來つた。

然るに見よ、インフレ産業資本家階級は、徒らに其の利潤を私し其の従業員の賃銀は近來多少に騰しつゝ、あるも、是れ一つに強業夜業等によ、労働強化の結果にして、其の健康と家庭生活を犠牲にせざるものなりと断ぜざるを得ない。而して一般産業不